



関ヶ原街角案内協会のボランティアメンバーと青少年ふるさと歴史ガイド養成員古山さん
熊本県からお越しの親子と共に記念撮影



取材協力をしてくださった方々をご紹介します。

◆三輪さん(78)

関ヶ原街角案内ボランティア歴31年目。設立初期メンバーであり、前会長。

◆小谷さん(76)

関ヶ原街角案内ボランティア歴25年目。現会長。

◆松井さん(68)

関ヶ原街角案内ボランティア歴24年目。会計と来所者の統計を担当。25年前に『関ヶ原街角案内ボランティア協会』を、青少年歴史講座受講生の体験実習受け入れ先とした時に尽力。

◆楠さん(77)

関ヶ原街角案内ボランティア歴15年目。会員達の都合を聞いて当番スケジュールを決めている。

◆池側さん(70)

関ヶ原街角案内ボランティア歴13年目。青少年歴史講座受講生の引率も兼任している。

『関ヶ原街角案内ボランティア協会』は、どのように始まったのですか？

『歴史を語る会』という郷土史研究の集まりが平成元年に発足して、その後、そのうちの有志が自分達の知識を地域に還元したいと平成4年に『関ヶ原街角案内ボランティア協会』を作ったのが始まりです。

『関ヶ原街角案内ボランティア協会』の活動内容を教えてください。

JR 関ヶ原駅正面にある観光交流館の一角で、3月半ばから11月末までの間、毎日1~2名が当番にあたり、午前9時から午後2時まで、パンフレットを用いて見所を紹介したり、表へ出て目的地方面の道案内をしたりしています。

(右写真 静岡から関ヶ原町を訪れたご家族。前会長の三輪さんが小4、小6の歴史好きな兄弟に武将シールをプレゼント。)



また25年前から『関ヶ原街角案内ボランティア協会』では、『青少年歴史講座(青少年ふるさとガイドになるための養成講座)』の体験実習先として、毎年夏休みに中学生を受け入れ、次世代の指導・育成に協力しています。

(左写真 小3の男の子が家紋はんこ帖にハンコを押すのを会員の池側さんと青少年ふるさと歴史ガイド養成員の古山さんがお手伝い。)

『関ヶ原街角案内ボランティア協会』は有償、無償どちらのタイプのボランティアですか？

関ヶ原町からの支援はありますか？

無償ボランティアなので、利用者からはお金をいただいております。

協会の運営資金は関ヶ原町からの支援で成り立っていて、名札やスタッフジャンパーの製作費、ボランティア保険代などに使っています。

(右写真 お揃いのスタッフジャンパーとマスクを着用した会長の小谷さんと会員の池側さん。

マスクの柄は関ヶ原町の他のボランティア団体と同じだが、それぞれの団体名が記されている。)



またお弁当代も運営資金から出させていただいて、いつも会計の松井さんがお手製の袋に入れて渡してくれます。可愛いでしょ？

金額ではなく、こんなちょっとしたことが嬉しかったりしますね。

(左写真 可愛い袋に入ったお弁当代)

『関ヶ原街角案内ボランティア協会』の利用者について教えてください。

昨年度は 6000 人を超える観光客のご利用がありました。これは同じ建屋にある観光協会の土産物屋の利用者は含まない数値なんですよ。

でも、コロナ前は年間7~8000人、もっと以前は1万人以上ものご利用があったんですよ。

設立当初からずっと管理日誌を付けて統計をとっているのですが、やはり土日、夏休み、GW、春休み、シルバーウィークのご利用が多いですね。

そして、利用目的は関ヶ原古戦場に係ることが一番多く、次いで伊吹山、中山道、その他といった感じです。

またコロナで減っていた外国人の利用者数も、最近戻ってきました。

一時期は香港からの観光客が多かった印象もあったのですが、今はどこの国が多いといったことはなくて、アメリカ、カナダ、オーストラリアなど様々な国からいらっしゃいます。

私達も外国人利用者が英語が話せる方ばかりではないので、パンフレットは多言語そろえて対応しています。

わざわざ関ヶ原に興味を持って来てくださる方達なので、面白いことに言葉は通じなくてもパンフレットを見せながら指さしすることで、コミュニケーションは取れています。

でも、楠さんが最近、個人で翻訳機を購入したとのことなのでその使い勝手を確認してから、協会でも翻訳機とか翻訳タブレットとかを購入したら、もっと交流できるかもしれませんね。

『関ヶ原街角案内ボランティア』になった理由は何ですか。

自ら、「会員になりたい。」と門戸をたたいてくれる方は少なく、三輪さんのように設立に携わった方達以外は、会員から誘われたのがきっかけという方が多いと思います。

誘われて、やってみようと思った理由は、「歴史が好きだから」というよりも、この「地域を良くしたい」「地域を盛り上げたい」「関ヶ原を全国の人に知ってもらいたい」という地域貢献の気持ちの方が強いです。(異口同音)

みなさん、『関ヶ原街角案内ボランティア協会』でのボランティアガイド歴は長いですね。

長く続けてきた中で、印象に残っていることがあれば教えてください。

また、どのような時にやりがいを感じるのかについても教えてください。

個人情報云々がなかった時代の話で、今では考えられない話かもしれませんが、昔はノートを用意しておいて、利用していただいた方に差し支えなければ住所と名前を書いていたしていました。そして毎年そのノートからランダムに選んだ 1/3 くらいの 3000 名の方々に、手書きで年賀状を書いて送っていたんです。すごく字の上手い会員が宛名書きしてくれてね。そうすると、送った相手からお返事をいただいたり、また関ヶ原に来ていただいたり。そんな風に、関ヶ原を訪れていただいた後も交流を続けられたのがいい思い出ですね。

そして、あの頃も今も、全国各地から訪れてくださった多くの方とお話できることが何よりの楽しみ。観光案内所でボランティアガイドをしていなければ、全国の方と話せる機会なんてないでしょう。利用者にとどこから来たのか尋ねて、利用者の地元の武将の話やお城の話などで話がはずむのも楽しい。

「教えていただいたところを廻ってきました。地元の方にお話をお聞きしてから観光できて本当に良かった。」と、観光した後でわざわざ観光交流館まで戻ってきてお礼を言ってくださったり。

「数年前、立ち寄った時に親切にしていただけたので、またお会いしたくて寄りました。」と再訪してくださったり。

中でも「また必ず来ます。」なんて言っていただけで嬉しくなって、今回は時間が足りなくて行けなかったとおっしゃる場所のパンフレットをアレもコレもと沢山渡してしまいます(笑)

沢山の出会いがあって、楽しくお話をし、関ヶ原を楽しんでいただけることが嬉しいです。

観光案内所でのボランティアガイドをする上で、努力していることはありますか？

実は、協会全体での研修を今では行っていません。

一時期、『関ヶ原街角案内ボランティア協会』の全員で勉強会をしていたこともありますが、そのことで“ボランティア”が敷居の高いものとなってしまって、退会してしまう方が出てしまいました。

その反省から、現在は会員各々が関ヶ原町の開催する各種生涯学習講座に参加したり、他のボランティアをすることで、スキルアップに努めています。

『関ヶ原街角案内ボランティア協会』が抱えている問題、課題がありましたら教えてください。

設立当初は約 130 名もの会員がいて、一日に 3 名での当番でも、3 か月に 1、2 回しかまわってこ

ないほどの大所帯でした。

でも設立から 30 年以上経って会員は高齢化し、退会する方や亡くなられる方が多く、現在の会員数はあの頃の半分以下の 61 名になってしまいました。

その 61 名うちの 59 名がシニアと呼ばれる 65 歳以上で、平均年齢は 72 歳…。

昔は「60 歳から第二の人生」と言われていましたが、今は 65 歳や 70 歳になっても働くという社会の構造になったのが原因で、定年退職をした後もみなさん忙しそうで、仲間に誘いにくくて…。

声かけをしても、新規入会者は年に 1~2 名ほどしかありません。

会員の高齢化と会員数減少が課題ですが、難しいですね。

現在も協会の全員が、『歴史を語る会』にも所属しているのでしょうか。

いいえ、設立時はそうでしたが、所属していない会員もいますよ。

たまたま今回取材を受ける為に集まったメンバーは、5 人とも『歴史を語る会』にも所属しています。ここでボランティアガイドをされている方は活動的な方が多く、『史跡ガイド』、『関ヶ原のろしの会』などの他のボランティアにも参加していたり、関ヶ原町の生涯学習『歴史講座』に参加していたりして、『歴史を語る会』に限らず、いくつか掛け持ちしている感じですね。

入会条件はありますか？

入会希望者はいつでも歓迎で、「関ヶ原町民もしくは関ヶ原町出身者であること」が条件です。

最近入会希望者がありました。関ヶ原町の方ではなかったのが、残念ながらお断りをしました。

もともとが地域おこし、地域貢献を目的とした団体であることと、関ヶ原町は関ヶ原の合戦地として有名ではあるのですが、それだけじゃない。他にも伊吹山、中山道の宿場町などの見所が多く、『関ヶ原街角案内ボランティア』をするには歴史以外の知識も必要です。

例えば、「ドクターイエローが撮影できる良いスポットはない?」、「この時期、どんな花が咲いているの?どこに見に行けばいい?」といった質問には、やはり地元の者でないとお答えできないですから。それ以外には入会条件はありません。

当番は朝来たらインフォメーションの台を表に出し、周辺の清掃をして、パンフレットの補充をします。観光客がお見えになったら道案内等をするのですが、新規会員は、当番でペアになった人のやり方を見て習うという感じで、何も難しいことはないですよ。

「観光案内所でのボランティアガイドをする」ということについて、読者の方にメッセージをお願いします。

史跡ガイドやエコツアーガイドは健脚で体力がないとできませんが、観光案内所でのガイドは足腰が弱っても続けることができます。利用者がいないときは座って休むこともできるので、体力的にもきつすぎることもありません。

現に『関ヶ原街角案内ボランティア協会』には現役の史跡ガイドだけではなく、元史跡ガイドも大勢いらっしゃいます。体力的なことが理由で史跡ガイドができなくなっても、観光案内所でのガイドは続けることのできるため、これまで培った知識や経験を生かして、地域貢献が続けられます。

いつまでも元気に過ごすためには、家にこもっているよりは、人に会ってお話をするという事が大切だと思います。観光案内所でのボランティアは、全国各地、世界各地からおみえになるお客さまと話すことができ楽しめますよ。